

女子大学生の化粧行動と自意識との関係

共立女大家政 ○杉山真理 小林茂雄

《目的》 化粧は服装と同じく自己を表現する手段として、日常的に、簡便に用いられている。この化粧行動は人のパーソナリティと関係があると考えられる。そこで、パーソナリティとして自意識を取り上げ、女子大学生の化粧に対する意識や考え方、化粧をした時の気持ちが、各個人の自意識とどのように関係しているのかについて考察する。

《方法》 女子大学生 221人を対象として、1993年11月にアンケート調査を実施した。調査内容は化粧に対する意識や考え方（15項目、5段階尺度）、化粧をした時の気持ち（15項目、5段階尺度）である。自意識尺度には菅原の尺度（21項目、5段階尺度）を用いた。調査データは因子分析法を適用し、それぞれの因子得点により、化粧に対する意識および化粧をした時の気持ちと自意識尺度の関係について相関分析により検討した。

《結果》 因子分析（固有値 1.0以上、バリマックス回転）を行った結果、化粧に対する意識調査においては自己のおしゃれ表現性、化粧のT.P.O.性、外見重視性など5因子（累積因子寄与率60.8%）が、化粧をした時の気持ち調査においては積極性の上昇、前向き思考など4因子（67.1%）が抽出された。自意識尺度についても因子分析の結果、公的自意識と私的自意識の2因子が抽出された。化粧に対する意識と自意識の関係として、公的自意識の高い人ほど自己のおしゃれ表現性に積極的であり、外見を重視する傾向にあり、私的自意識の高い人ほどT.P.O.によって化粧を変えない傾向にあった。また、化粧をした時の気持ちと自意識の関係として、公的自意識の高い人は前向き思考になり、積極性が高まる傾向にあるのに対して、私的自意識の高い人は逆に積極性が低くなる傾向にあった。